

**新県立大学に関する意見交換会（長野会場）概要**

H26. 10. 30 開催

**【理事長予定者・学長予定者対談】****<理事長・学長を引き受けた理由>****(理事長予定者)**

- ・新しいビジネスを起こしている国は、大学とそれを支える地域が一つの生態系のようなものを形成しており、生態系の中心には必ず大学がある。
- ・生涯かけて、人材育成ができる、新しいタイプの大学をつくるべきと考えていたところ、グローバルな考えを持ち、地域に新しいビジネスをどんどん起こせる人材を輩出できる新しい大学をつくられるとの話を聞き、理事長を引き受けた。

**(学長予定者)**

- ・長野県がとても好きで、この環境のいい場所で4年間勉強ができたならとても素晴らしいと思い、学長を引き受けた。大学では、学生一人一人の個性にあった教育をすべき。新大学は240名定員の小規模であるので、熱心な教員とともに良い教育をしたい。

**<大学設置の必要性>****(理事長予定者)**

- ・人口減少社会に向かう中、日本に活力を与えるのは、地方の力をどれだけ上げ、地方が中心となって世界と直接結びつくかだ。活力あるコミュニティづくりのため、大学が中心的な役割を果たし、若者が地元に残れるような仕掛けをつくりたい。

**(学長予定者)**

- ・大学収容力は長野県が全国最下位で、優秀な高校生が県外で学ばざるを得ない状況にある。少しでも県内に留め、県に愛着を持ってもらいたい。

**<グローバルな視野でイノベーションを創出>****(理事長予定者)**

- ・若者が県外や海外へ出ていく分、県内へ入ってくる人の循環も必要。
- ・世界が一つの大きなグローバルビレッジのようになっている。地方からダイレクトに世界の市場に結びつくようになることが必要で、そのための人材育成が大学の役割。
- ・少人数教育を受けた個性ある人材を地元企業に送り出せるようにしたい。

**(学長予定者)**

- ・学生全員が海外体験できるように「4学期制」を導入すれば、海外のサマースクールに行くことができる。語学研修、海外インターンシップ、海外ボランティアも可能。
- ・若い時期に世界に直に触れることは、学生にとっても、未来の長野にとっても素晴らしいこと。

**(理事長予定者)**

- ・イノベーションに関しては、環境の変化にどう対応するかということが大事。

変化に対応した新しい方法を考え、社会的価値として提案していけるかだ。

・グローバル化の中で今までとはルールが変わった。企業だけで考えるのではなく、地域全体で大学と連携して考えた方が成功する確率が高くなる。長野県をイノベティブな地域にできれば、世界から人材が集まり、新しい価値の提案が活発になる。

・長野県には素晴らしい技術を持った企業が多くあり、イノベーションの流れに乗ったプラットフォームが形成可能。「知の拠点」として新大学が位置付けられるといい。

(学長予定者)

・イノベーションの創出が今の時代にはとても重要。既成概念に捉われない自由な思考ができる人材を育成したいが、ディスカッションによって、学生の頭脳の柔軟性を鍛えていきたい。

### <厳しい大学、身に付く大学>

(理事長予定者)

・1年次の原則全寮制も新しい大学の特長。寮では先輩後輩のつながりが強くなり、共同生活をする中で互助精神が養われる。

・日本人はチームでは能力を発揮するが、対個人では外国人に比べてひ弱。グローバル化が進展する中で、寮生活でタフさを身に付けることも必要。

・日本の高校生は世界レベルが高いが、大学に入ると米国と比べて著しく勉強時間が短いのが現状。新県立大学では敢えて厳しい教育を行いたい。

(学長予定者)

・勉強するのが学生の本分。学生の夢をかなえてあげるのが大学の役割なので、充実した授業をして、学生の評価も厳しくして卒業させたい。

・教育は教員で決まるところが大きいので、優秀な教員を採用していきたい。

### 【来場者との意見交換】

(来場者)

・議論が出来ない今の高校生に対して、大学の授業構成をしっかりとしないと、学生が大きく転換できない。そこを大きく変えるのは大変ではないか。

(学長予定者)

・きちんと教育すれば、理解して聞いてくれると思う。やる前から諦めたくない。

(来場者)

・グローバル社会には多様性や問題発見能力が必要。ぜひサービスラーニングをカリキュラムに組み込み、座学で学んだ知識のアウトプットの場としていただきたい。

(学長予定者)

・長野県全体がキャンパスという精神でいくべき。林業や農業なども体験させたい。

(理事長予定者)

・地元の企業で学生と一緒にプロジェクトを通じてウィンウィンの関係でやれるようにしていきたい。

**(来場者)**

・アントレプレナーシップ教育について、大学発のベンチャーを考えているか。財務や資金調達のプロフェッショナル、エンジェル投資家等がいるインキュベーションセンターを想定しているか。

**(理事長予定者)**

・インキュベーションセンターについては具体的な議論はしていない。イノベーションは一大学が頑張っても無理で、地域のネットワークを使って立ち上げていきたい。

**(来場者)**

・海外のどの大学との提携を視野に入れているか。クォーター制で4年間のカリキュラムをどう進めていくか。感性豊かな人材をどう育てるか。教員採用について、どう進めていくのか。

**(学長予定者)**

- ・アメリカに限らず、アジアも含めて色々な大学と連携していくべきと考える。
- ・4学期制の導入で、学生が週2回の授業で集中でき、海外体験に参加しやすくなる。
- ・感性については、寮が全人教育の場として有効で、学生と教員、先輩、メンターが繋がり合うことで、豊かな人間性、感性が生まれてくるのではないか。
- ・教員採用については、中核教員から順に面談しながら決めていきたい。

【理事長予定者・学長予定者対談】

＜理事長・学長を引き受けた理由＞

（理事長予定者）

- ・海外では、大学と企業との結びつきが非常に強く、それを主導する官の役割が明確に意識されており、国や地域のビジョンとも結実して、新たな産業を生み出すなど、特長ある大学づくりをしている。
- ・日本でも、もっと世界に挑戦するような若い世代を育成するにはどうしたらよいかと考えていたところ、長野の新しい大学で、地域のリーダーとなる人材を育成しようとしていることを伺い、是非貢献したく、理事長を引き受けた。

（学長予定者）

- ・長野県に対するあこがれがあった。山が好き。空気、水、食物も何でもおいしい。
- ・大学では、一人一人の個性を大事にして、伸ばしてあげることが重要。長野県において、少人数で、親身な指導をしながら、質の高い教育をできるのではないかと、是非そういう大学を作りたいと思い、学長を引き受けた。

＜大学設置の必要性＞

（理事長予定者）

- ・長野県を魅力的な地域にし、若者が素晴らしい長野の価値を認識して、そこで仕事をしたいようになるように、新しい県立大学が果たす役割は非常に大きい。県内大学が一体となり、地域企業と一緒にあって、雇用や新産業をつくっていくことが必要。
- ・現在は地域と世界が直接結びついており、新しい長野の核となる大学が必要。

（学長予定者）

- ・地方の人口流出という危機感を各県が持っている。高校生の受け皿として、大学が長野県に適正数あることが非常に重要。
- ・学生の県外への流出状況を考えると、県民がこれだと思える大学をつくり、県内の優秀な高校生を送り込む時期に来ている。
- ・県民が誇れる大学を創りたい。

＜グローバルについて＞

（理事長予定者）

- ・インターネットが普及した今、大きな変革が起こっている。個人が社会とダイレクトにつながり、お互いに影響し合っている環境の中にいる。
- ・日本はグローバル化の中で存在感がなくなっている。今までとルールが変わったことを認識して、やり方を変えなければならない。

・大学が地域において、企業を活性化し、地域のリーダーを輩出して、海外の地域経済と連携することも、県立大学の役割としてある。

(学長予定者)

・学生全員に海外体験をさせ、視野を広げて、多様な価値観を受け入れられるような人間になってほしい。海外へ行きやすくするためにも「4学期制」をやりたい。集中授業ができ、学生のモチベーションも維持できる。

## <イノベーションについて>

(理事長予定者)

・イノベーションとは、新しい手段や新しい方法を結びつけることによって、全く新しい価値をつくり出すこと。素晴らしいテクノロジーや技術革新などとは異なる概念。  
・長野においても地域全体を一つの生態系として、大学がその核となり、知の拠点、イノベーションの拠点を目指してやれば、素晴らしいモデルができるのではないかな。

(学長予定者)

・イノベーションを創出できるようにするためには、柔軟な発想力を持つ、既成概念に捉われない能力を持つ人材を育成したいが、ディスカッションによって発想力を磨きたい。  
・知識を自分の言葉で再構成する、相手の視点から議論を見る、相手を説得する過程で、1つの学問だけでなく、周辺の学問を同時に関連づけて理解することができる。他分野の知識といかにつなげていくかが重要。

## 【来場者との意見交換】

(来場者)

・県内高校生の15%しか県内に残らないということが、新たに県立大学をつくろうという一つの要因だったと思うが、県内の高校生がどのくらい入れるのか。

(理事長予定者)

・長野県の高校生の選択肢を増やし、県内高校生にとって目標となるような大学としたい。

(学長予定者)

・新大学の理想は高いが、県内の高校生はできると思うので、ぜひ来てほしい。  
・入試方法等について、今後高校の先生方と議論しながら決めていきたい。

(来場者)

・グローバルな視野を持ち、ビジネスや社会にイノベーションを起こして、素晴らしい長野県の人材をつくりたいというのは、時期的にかなり遅いのではないかな。来年3月に新幹線が金沢まで延伸され、北陸地方の大学との厳しい環境の中で、かなり厳しい面があると思う。

(理事長予定者)

・遅すぎることは決してない。環境は常に変化するから、環境を味方にする者が勝つ。

(来場者)

・1学年240名定員で、入学金、授業料はいくらか。教授陣は何人で、経費はどのくらいかかり、県からどのくらいお金を出さないといけないのか。

・長野県民が全員諸手を挙げて新しい県立大学に賛成しているわけではない。私学の経営を脅かすような大学は設置してはいけない。特に管理栄養士の問題はどう考えているのか。

**(理事長予定者)**

- ・具体的な授業料等については、開学までに明確にしていきたい。
- ・これからは、長野県全体のことを考えて、県内大学が一体となってネットワークをつくり、トータルとしてレベルを上げ、魅力的な地域としていくことが目標。自ら競争に立ち向かう努力と気迫がないといけない。

**(学長予定者)**

- ・県内大学は非常に教育熱心で、地元貢献を大変考えており、素晴らしい。ぜひ新大学も教育重視で、一人一人の教育をきちっとやっていきたい。各大学が死に物狂いで戦っている時に、長野に良い大学をつくって、守るだけでなく、一緒に攻めていきたい。
- ・管理栄養士の問題は、できるだけ良い形の解決方法を見つけていきたい。